

## 女性技術者からひとこと 最近の「困った話」

東北地下工業㈱ 緑川 百合子

私は、およそ建設関連業とは掛け離れたことを学び、外で体を動かすことはあまり好きではなく、趣味といえば手芸など、家の中ですることばかりです。しかし、縁あってこの職業につきましましたのが昭和56年、それから19年が経ち、体力的なこともあり、今は主に調査データの整理、作図や解析業務のアシスタントを担当しています。

最近建売住宅を購入された方から、次のような問い合わせを受けました。

「入居して間もないのに基礎が下がったので、工務店に話をしましたら建築前に地盤調査（スエーデン式サウンディング）を行って問題なかった。…結論的には不可効力で何ともならないと言われました。どうしたら良いでしょう。」

よく話を聞きますと、水田に盛土をしたところだということです。

「おそらく、沈下の原因は水田表部の軟弱層が圧密しているためと思われますので、沈下が止まってから、基礎の修復をするのが最も安上がりでしょう。但し、沈下が治まらない場合は、松杭で周辺地盤を拘束すると共に、基礎に連結して沈下を抑制する必要があるでしょう。」とお話しました。相手が個人であり、多額の費用を要することは現実的でないのだからこれ以上のアドバイスはできませんでした。実際調査されたのは、どのような立場の方かは不明ですが、一般からすれば、地盤調査するのは「当業界」という判断で近くの当社に尋

ねられたのでしょう。

何か心に引っかかるものがあったので、上司に話しましたら、次のような経験を話してくれました。

「A宅地内に急傾斜地があり、その付近に住宅を請負った工務店の方が当社にみえて、申請書類のファイルより“法面の安定に関する報告書”という用紙を1枚取り出して現場を見て書いてくれ」と簡単に言われたそうです。また、同様の書類を「作ってくれ」と言う方もあり、前者については、客先の理解もあってボーリング行い、安全側の勾配を指定しその他施工条件を加えて報告。後者については、お断り申し上げたそうです。数か月後にA宅地付近を通った時、わざわざ調査費をかけた法面の冗談が常識に反し、急になっていたため、事務所に戻り書類を、チェックしたところ報告に間違いなく、施工された業者に問い合わせると、用地の関係でやむを得なかった、という返事が返ってきて愕然としたということです。

いづれの不都合も、コスト優先が招く結果のように見えてなりません。

私的には、受持ち範囲での客観性を保つくらいしかできませんが、機会があれば当業界のPRにも勧めたいと思っています。

最後にこの職業に関わり、自然を観る感覚が少しは、養われたような気がしますし、今後も身近なところで役立てたらと思います。